

(仮称) 吹田市立スタジアム建設事業に係る環境影響評価書案 に対する吹田市環境影響評価審査会意見 (案)

本審査会は、(仮称)吹田市立スタジアム建設事業に係る環境影響評価書案について、環境の保全及び良好な環境の創造の見地から専門的・科学的に審査を行った。

事業者は「大阪府建築物環境評価システム」において最高ランクの達成を目標にすることや、観客用駐車場に予約制を導入することで公共交通機関の利用を誘導することなど、先進的な環境取組を導入した「エコ・スタジアム」を建設する姿勢を示している。このような開発理念は、吹田市環境まちづくり影響評価条例の趣旨と一致するところであり、高く評価できる。

一方で、本事業で懸念される歓声等の騒音による周辺への影響や、退場者の安全確保に関して、より効果的な配慮を求めた。事業者は、上記取組の具体化に努め、施設供用後においても、実際の状況に応じた効果的な改善を継続的に行うことを要望する。

記

1 交通

1-1 交通混雑

(1) 環境取組内容

ア 周辺駐車場と連携した駐車場予約制の適用にあたっては、その実効性を高めるための対策を関係機関と検討し、施設供用までに運用が可能な状態にしておくこと。

イ 予約駐車場入口で外周道路に入場待ち車列が発生しないように、駐車場への入場車両が一時に集中することを回避する対策を講じること。

1-2 交通安全

事業者が評価書案で示した歩行者誘導計画については、試合終了後退出まで約1時間を要することから、退場者の事故を防止し、また、快適に移動できるよう以下の取組を追加する必要がある。また、施設供用後、事業者は、歩行者を適切に誘導するための方策を継続的に改善し、更なる安全確保及び快適性の向上に努める必要がある。

(1) 環境取組内容

ア 退場者に対して適切なルートや公共交通機関の運行情報などをリアルタイムに提供することで混乱を回避し、交通安全上のリスクを低減すること。

イ 歩行者シミュレーションによる予測をもとに、歩行者を安全かつ快適に誘導するためのマニュアルを作成すること。

ウ 自転車と歩行者の間で事故が生じないよう対策を講じること。

エ 遠隔地からの来客への対応として、大阪駅、京都駅などの拠点となる駅へのバス輸送の可能性を検討すること。

オ スタジアムへの来客による公共交通機関の一時的な混雑による事故リスクを低減するための対策を検討すること。

(付帯意見)

当該事業において最も重要な課題である交通混雑の緩和及び交通安全の確保にあたり、事業者は、道路管理者、モノレール事業者地権者、吹田市、大阪府、計画地近傍の大規模複合施設開発事業者などの関係機関と十分協議を行い、公共交通の輸送力増加、道路整備などの実施を目指すこと。

また、歩行者誘導マニュアルの作成にあたっては、観客数以外に、天候や勝敗などの影響も考慮した対応区分の基準を明確に定め、区分ごとの対応を定量的かつ具体的に示し、歩行者誘導マニュアルの充実を図ること。

2 騒音

(1) 環境取組内容

歓声や場内放送による騒音影響を低減するために、指向性の高いスピーカーを使用して、設置場所や向きへの配慮を行うとともに、観戦ルールを定めたうえで来場者に対して観戦ルールの遵守を求めるなどの対策を講じること。

特に夜間（午後 9 時以降）は場内放送の音量の低減及び来場者への周知など特段の配慮を行うこと。

また、これらの対策を具体的に示すこと。

3 温室効果ガス・エネルギー

(1) 環境取組内容

ア 太陽光パネルの設置については、今後詳細な施設計画を設計する上で、性能向上が見込めれば、可能な限り、現計画以上の発電容量の設置を検討すること。

イ 観客輸送用のバスについては、必要なバスや運行頻度を確保するとともに、環境配慮型車両（HVや天然ガス）の導入を交通事業者と協議すること。

ウ 関係車両については、EV、HV車などの最新のエコカーの利用を関係者に対して推奨するなどの取組を検討すること。

エ 施設管理用の照明に加えて、ナイター用の照明についても、高効率化などの取組を検討すること。

オ 近接事業との連携により実施した、スマートコミュニティの取組に関する実現可能性調査（平成 24 年度スマートコミュニティ構想普及支援事業）の結果も参

考にして、近接事業と連携し、先進的なエネルギー利用計画について検討すること。

4 廃棄物等

(1) 環境取組内容

- ア 環境に配慮した製品の採用については、バイオマス等再生資源の採用を検討すること。
- イ 廃棄物の分別回収に加え、リサイクル可能な食器やリユース食器の導入に取り組むこと。

5 大気汚染

(1) 環境取組内容

- ア 可能な限り、最新の排出ガス対策型の建設機械を使用すること。
- イ 資機材搬入車両については、最新の排気ガス性能等の良い車両の利用を関係者に対して推奨するなどの取組を検討すること。

(2) 事後調査

工事中の二酸化窒素及び浮遊粒子状物質については、建設機械の稼動機種、台数、時間による数値計算などの方法により排出量を把握すること。

6 ヒートアイランド現象

(1) 環境取組内容

- ア 広場について、高木による木陰の創出などにより、蓄熱を避け、地表面温度を下げる取組を検討すること。
- イ ドライ型ミストなどを設置し、夏場の来場者に対して熱ストレスの緩和の取組を検討すること。

7 緑化

(1) 環境取組内容

- ア 高木については、現時点で計画している樹種にエノキ、アキニレを、低木については、ミカン科の樹種を加え、生物多様性に配慮した植栽計画を検討すること。
- イ 緑化計画については、避難計画等も踏まえて、可能な限り、植栽すること。

8 安全

(1) 環境取組内容

緊急災害時の防災拠点としての機能をより向上させるための取組を検討すること。